ぼくの弟
糸井重里

ぼくの家に弟が生まれる。

ぼくが、ひとりでさみしそうだから
ME50689

パパと

ママが

いっしょうけんめいつくってくれたんだ。

でもいつごろ生まれるかは、
まだ決まっていない。
モゴモゴ

ふつうは、1年くらいママの
おなかのなかにいて
オギャーっと生まれるんだけど

ママに考えがあって
もっと大事につくるんだそうだ。

動物のなかで
人間だけが
生まれてすぐ
歩けない。

パ…ッチリ！
他の動物は
ママのおなかから
出てくると
すぐ目が開いて

すぐ歩くようになるんだそうだ

だけど
人間の赤ちゃん
は歩くまでに
一年くらい
かかるんだ
という……。

だから、ママは、安全なおなかの中で
ゆっくり育てて
立派な人間にしてから
産みたいって言う

ぼくは、はやく弟に会いたかったけど

あんまり急いでヘンな弟ができたら
いやだから、
ガマンをした。

さあ
これからが
勝負よ!!
キリッ

ママは、赤ちゃん用品を
どんどん買いはじめた。
Baby

おむつ

赤線印
ミルクや
哺乳びん

乳母車

baby
ベビーベッド

それを少しずつ、ママは食べはじめたんだ

ねえ
おいしい?

釘なんて
おいしいの
?

キッ!

おいしくなくったって
弟のためには
しかたないじゃないの!

だんだん
ママの食べものも
変ってきた
そろそろ
ランドセルを
食べるシーズンね

あっ、ママ ぼくの
を食べたらっ

弟に
おふるを
つかわせる気!?
ゴチ

電卓や
参考書も食べた
45600

卒業証書も食べたし

ピアノなんかも、食べた。

そのうちヌード写真も食べる
ようになって

弟が
欲求不満になると
いけないからね……

女の人も食べた。

女の人を食べる時には、
変なゴム風船もいっしょに食べた

弟がへんな女にひっかかっては
いけないからだそうだ

弟が生まれる前に死んだ

ガリャー

ガチャーン

ぼくの二十才の誕生日だった。